

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(米国2019年10-12月期GDP速報)

2020/1/31

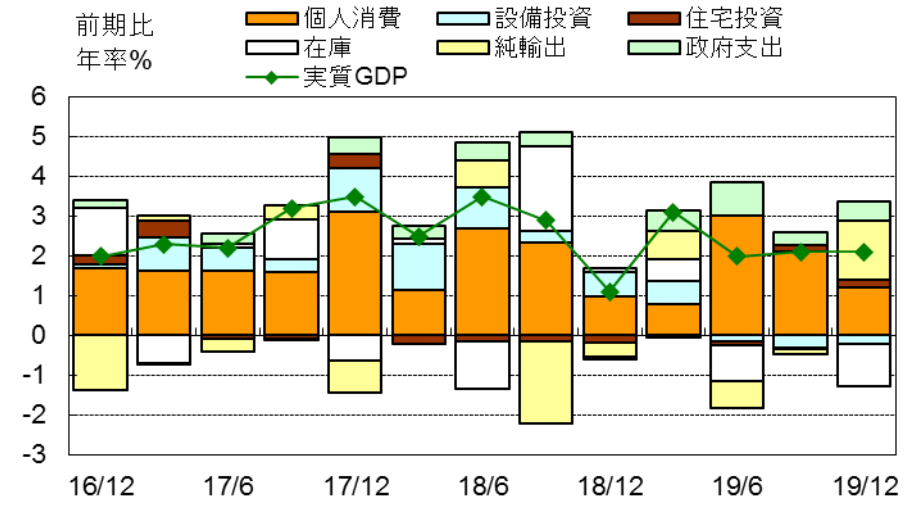
りそなホールディングス 市場企画部

〇概況

- ◆ 10-12月期実質GDP成長率は前期比年率+2.1%
- ◆ 個人消費が前期比年率+1.8%と予想を下回る
- ◆ 先行き注目は弱さが続く設備投資と軟調な物価指標

- ✓ 2019年10-12月期実質GDP成長率は前期比年率+2.1%となった（市場予想+2.0%、7-9月期+2.1%）。尚、コアPCE価格指数は前期比年率+1.3%と伸びが縮小した（7-9月期+2.1%）。
- ✓ 個人消費が前期比年率+1.8%（市場予想+2.0%、7-9月期+3.2%）と予想を下回りやや軟調。内訳は耐久財（7-9月期+8.1%→10-12月期+2.1%）、非耐久財（+3.9%→+0.8%）、サービス（+2.2%→+2.0%）。
- ✓ 設備投資は前期比年率▲1.5%（7-9月期▲2.3%）と三四半期連続のマイナス。設備投資は弱含みのサイクルが続いている。一方、住宅投資が前期比年率+5.8%（7-9月期+4.6%）とプラス幅を拡大。低金利環境のもとで住宅投資は堅調な推移。
- ✓ 在庫は前期比年率ベースの寄与度が▲1.09%ポイント。
- ✓ 輸出は前期比年率+1.4%（7-9月期+1.0%）、輸入は▲8.7%（7-9月期+1.8%）で外需が大きく成長に寄与した。
- ✓ 政府支出は前期比年率+2.7%（7-9月期+1.7%）で四半期連続のプラス。
- ✓ 在庫が大きなマイナスとなった一方で、輸入減による外需のプラス寄与が大きく、全体的には予想に近い結果となった。
- ✓ 個人消費は減速も、前2四半期のような高成長の持続は難しく巡航の成長速度といえる。先行き注目は弱さが続く設備投資、また軟調なコアPCEデフレータの状況。物価上昇の弱さが続く金融緩和期待が高まる展開が想定される。

【実質GDP成長率（季節調整済、年率）】



【実質GDP成長率寄与度（季節調整済、年率）】

	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4
実質GDP	+1.1	+3.1	+2.0	+2.1	+2.1
個人消費	+1.0	+0.8	+3.0	+2.1	+1.2
設備投資	+0.6	+0.6	▲0.1	▲0.3	▲0.2
構築物	▲0.3	+0.1	▲0.4	▲0.3	▲0.3
機器	+0.4	+0.0	+0.1	▲0.2	▲0.2
知的財産	+0.5	+0.5	+0.2	+0.2	+0.3
住宅投資	▲0.2	▲0.0	▲0.1	+0.2	+0.2
在庫	+0.1	+0.5	▲0.9	▲0.0	▲1.1
外需	▲0.4	+0.7	▲0.7	▲0.1	+1.5
輸出	+0.2	+0.5	▲0.7	+0.1	+0.2
輸入	▲0.5	+0.2	+0.0	▲0.3	+1.3
政府支出	▲0.1	+0.5	+0.8	+0.3	+0.5

【出所】米商務省、Haver Analytics

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。
 お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。